

教育グループ

平成28年度 第3回 議事録

【年間テーマ 原点に返って抑制廃止の教育を検討・実施する】

平成28年8月10日提出

日付	平成28年8月6日(土)			
場所	セントラーザ博多		記録者名:中島 文江	
出席者 (敬称略)	水木病院 内田 明美	和仁会病院 中島 文江	シーサイド病院 小野 寛子	北九州中央病院 坂本 清美
	古森病院 酒井 美由紀	水戸病院 楠 智加子	北九州古賀病院 長野 聰子	和仁会病院 山崎 輝美
	有吉病院 芳中 由美子			
テーマ	転倒の事例についての問題点と解決策			
結論	<ul style="list-style-type: none"> ・センサーマット使用の現状と患者対応のアセスメント。 ・センサーマットを新に増やす事に対するリスク。 ・センサーマットのON・OFFの確認漏れが必ず発生する。 ・何台もセンサーマットを使用し、頻回に同時にセンサーをキャッチすると、スピーチロックの原因となる。 ・認知症の人へのセンサーマット対応は、チェック表を用いてトイレの時間等の行動パターンを知り、アセスメントへ繋げる。 			
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> ・センサーマットだけでなく、ベッドを低床にし、床にスポンジ、その上へマットを敷き危険防止に努める。 ・今回センサーマットをキーワードにした話し合いの中でも、センサーマットは殆どの病院で身体拘束として取り組みがされていました。次回は、抑制廃止の教育について院内で実際にどのような活動をしているか議論します。 			
備考	司会: 山崎 輝美			
次回討論項目	教育について、院内で行っている活動内容の検討。			

抑制廃止とケアの質を高める会 事務局

Eメールアドレス info@famcf.jp

(FAX.092-691-3961)